

景況レポート

No.140

2022年7月～9月期



北見しんきん

〒090-8711 北見市大通東1丁目2番地1
電話(代) 0157-24-7531
URL: <http://www.shinkin.co.jp/kitami/>
本レポートはホームページでもご覧になれます。

景気動向

道内景気

日本銀行札幌支店が10月3日に発表した9月の企業短期経済観測調査結果(短観)によりますと、道内企業の景況感を示す業況判断指数(DI:「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値)は全産業で3となり、前回の調査『▲1』から改善しました。内訳では、製造業(前回▲4→今回▲6)は悪化、非製造業(前回▲1→今回5)は改善しました。2022年12月までの全産業での先行き予測は▲6と、悪化の見通しです。

また、10月3日に発表された道内の金融経済概況は次の通りです。道内の景気は、緩やかに持ち直している。個人消費は、緩やかに持ち直している。観光は、引き続き厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。設備投資は、緩やかに持ち直している。公共投資は、高水準ながら弱めの動きとなっている。住宅投資は、減少している。生産は、横ばい圏内の動きとなっている。輸出は、持ち直している。雇用・所得情勢をみると、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに改善しつつある。

- ・ 公共工事請負金額は、高水準ながら、このところ弱めの動きとなっている。
- ・ 個人消費は、百貨店、サービス消費は、緩やかに持ち直している。スーパー、ドラッグストアは、底堅い動きとなっている。コンビニエンスストアは、持ち直している。家電販売は、横ばい圏内の動きとなっている。乗用車販売は、供給制約の影響から、減少している。
- ・ 観光は、引き続き厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。
- ・ 新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家は減少している。分譲は持ち直している。
- ・ 生産(鉱工業生産)は、横ばい圏内の動きとなっている。主要業種別にみると、食料品では、一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直しつつある。輸送機械、電気機械では、横ばい圏内の動きとなっている。紙・パルプでは、下げ止まりつつある。
- ・ 雇用・所得情勢をみると、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに改善しつつある。
- ・ 消費者物価(除く生鮮食品)は、前年比が前月を上回った。
- ・ 企業倒産は、低水準で推移している。

地区内景気

今回の当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDI値は、売上高が1と14ポイントの改善、収益も▲18と7ポイントの改善でした。直前3ヵ月と比較した今後3ヵ月の見通しでは、売上DI値は▲6、収益DI値は▲22と、悪化の見通しとなっています。

特別調査 【中小企業におけるSDGs(持続可能な開発目標)の取組状況について】

SDGs(持続可能な開発目標)が社会全体に広がりつつある一方で、中小企業においては、大企業と比較して認知度や取組み状況に遅れがみられるとの指摘もあります。

そこで今回は、中小企業におけるSDGsの取組状況について調査しました。

【SDGsについての認知度・情報源】

認知度では「意味はある程度わかる」が52.5%と最も多いものの、認知度が低いとの回答(「名前しか知らない」「聞いたことがない」)も34.6%となっています。

情報源では、「報道機関(テレビ、新聞等)」が76.4%と高い割合を占めています。

【SDGsへの取組み状況】

取組んでいるとの回答では「省エネ」が46.7%と最も多く、以下「省資源」が17.8%、「労働環境」が15.0%と続いています。一方、「取組みはしていない」も高い割合(37.2%)となっています。

【SDGsへの取組むことについての印象】

「コスト削減につながる」が36.7%、「従業員の士気向上、採用容易化につながる」が15.0%と、好印象の回答が上位となった一方、12.2%が「コスト増になる」と回答しました。

また、「よくわからない」も高い割合(36.7%)となっています。

【カーボンニュートラルへの取組み】

取組んでいるとの回答では「こまめな電源オフなど電気使用量の削減(55.0%)」、「ごみの削減やリサイクルの推進(26.7%)」が上位となっています。

一方、「取組んでいない」も高い割合(38.3%)となっています。

【外部機関からのサポートへの期待】

「利用したい支援はない」が36.1%と最も多い回答となっています。期待するサポートでは「省エネ対応(25.0%)」、「従業員向け研修(21.7%)」「経営者向け研修(17.2%)」が上位となっています。

【貴社では、SDGsについてどのような認知度にありますか。下記の1~4の中から1つ選んでお答えください。また、SDGsについて、どういった機関から情報を得ていますか。下記の5~9の中から1つ選んでお答えください。】

認知度	《全国》	
1. 内容までよく知っている	12.9%	19.0%
2. 意味はある程度わかる	52.5%	60.1%
3. 名前しか知らない	25.7%	17.4%
4. 聞いたことがない	8.9%	3.4%

情報源	《全国》	
5. 報道機関(テレビ、新聞等)	76.4%	76.1%
6. 国・地方自治体	3.9%	4.5%
7. 商工会、商工会議所	6.8%	4.7%
8. 同業者団体(元請け含む)	1.7%	4.9%
9. 金融機関	1.1%	6.1%
0. 聞いたことがない	10.1%	3.6%

【下記の1~9の取組みは、いずれもSDGsの理念と一致していません。貴社では、これらの取組みを行っていますか。もともと取組んでいるものを最大3つまで選んでお答えください。取組んでいない方は0とお答えください。】

	《全国》	
1. (省エネ) 省エネ、節電、再生可能エネルギーの使用	46.7%	54.9%
2. (省資源) 再生資源や未利用資源の利用、廃棄物削減、製品の長寿化や修理	17.8%	26.1%
3. (水資源) 水使用量削減、排水管理	5.6%	8.3%
4. (森林資源) ペーパーレス化、緑化・植林	10.6%	15.2%
5. (環境負荷) グリーン調達、カーボンオフセット、有害物質の削減	3.9%	4.3%
6. (雇用) 女性や高齢者、障がい者、外国人等の多様な人材の雇用	12.8%	15.4%
7. (労働環境) 研修の充実、働き方改革の実施	15.0%	14.1%
8. (貧困対策・健康福祉) フェアトレード、途上国支援	0.0%	0.6%
9. (地域貢献) 防犯、防災、寄付、まちづくり	12.8%	14.4%
0. 上記の取組みはしていない	37.2%	22.4%

【貴社では、企業がSDGsに取組むことについてどのような印象を持っていますか。1~0の中から最大3つまで選んでお答えください。】

	《全国》	
1. コスト削減につながる	36.7%	74.0%
2. 新規顧客が獲得できる	7.2%	19.7%
3. 取組まないと取引が切られる	0.6%	6.3%
4. 従業員の士気向上、採用容易化につながる	15.0%	27.5%
5. 自社が取組むには経営資源が不足	8.3%	14.5%
6. コスト増になる	12.2%	15.2%
7. 自社には関係がない	3.9%	6.4%
8. 本業がおろそかになる	6.1%	4.1%
9. その他	2.2%	2.7%
0. よくわからない	36.7%	35.4%

【SDGsの取組みの一つとして、カーボンニュートラル(温室効果ガスの排出量の削減ならびに吸収作用の保全及び強化)に関する取組みがありますが、貴社で取組まれている施策は何ですか。1~0の中から最大3つまで選んでお答えください。】

	《全国》	
1. こまめな電源オフなど電気使用量の削減	55.0%	62.8%
2. カーボンニュートラルにつながる商品の開発	2.2%	3.0%
3. ごみの削減やリサイクルの推進	26.7%	31.7%
4. 電気自動車等、ガソリン車以外の導入	3.9%	5.2%
5. 太陽光発電等、再生可能エネルギーの導入	7.2%	7.2%
6. 環境負荷の少ない原材料等の利用	5.6%	10.0%
7. 温室効果ガスに関する行動目標の設定	0.0%	1.4%
8. 脱炭素に関する研究や勉強会の実施	1.7%	1.6%
9. その他	1.7%	0.5%
0. 取組んでいない	38.3%	24.7%

【SDGsについて、外部機関(公的、民間問わず)からどのようなサポートを期待しますか。1~0の中から最大3つまで選んでお答えください。】

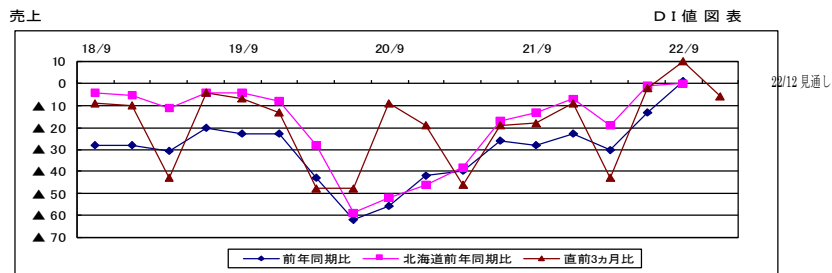
	《全国》	
1. 経営者向け研修	17.2%	23.7%
2. 従業員向け研修	21.7%	17.7%
3. 自社取組みの認知度向上	11.7%	10.6%
4. 省エネ対応	25.0%	29.1%
5. 各種認証制度取得	5.0%	6.9%
6. 働き方改革などの人事制度改定	10.6%	10.4%
7. 多様な人材の雇用	10.0%	9.4%
8. 資金調達	7.8%	9.3%
9. その他	1.1%	1.1%
0. 利用したい支援はない	36.1%	31.4%

売上

調査対象先企業 181 社の売上を総体的にみますと、前年同期（21 年 7～9 月）と比較して「増加」した先 30%、「変わらず」の先 41%、「減少」した先 29%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は 1 となり、前回調査より 14 ポイント改善しました。

業種別で見ますと、製造業は横ばい、他の業種は改善しています。

3 カ月毎の比較では改善、今後 3 カ月は悪化の見込みです。



調査時期	18/9	18/12	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9
前年同期比	▲28	▲28	▲31	▲20	▲23	▲23	▲43	▲62	▲56	▲42	▲40	▲26	▲28	▲23	▲30	▲13	1
北海道前年同期比	▲4	▲5	▲11	▲4	▲4	▲8	▲28	▲59	▲52	▲46	▲38	▲17	▲13	▲7	▲19	▲1	0
直前3か月比	▲9	▲10	▲43	▲4	▲7	▲13	▲48	▲9	▲19	▲46	▲19	▲18	▲9	▲43	▲2	10	▲6

※前年同期比の未期見通しは調査しておりません。

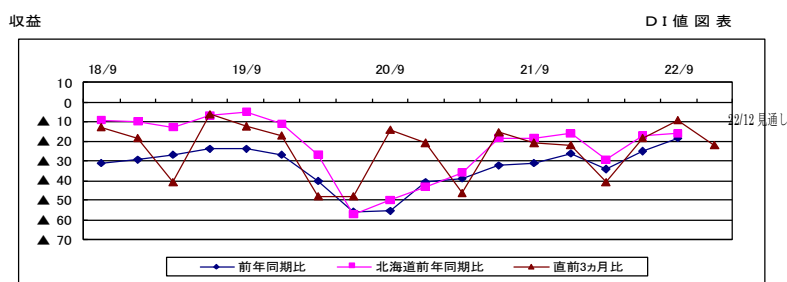
グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に行った全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

収益

調査対象先企業 181 社の収益を総体的にみますと、前年同期（21 年 7～9 月）と比較して「増加」した先 21%、「変わらず」の先 40%、「減少」した先 39%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲18 となり、前回調査より 7 ポイント改善しました。

業種別で見ますと、製造業・卸売業・サービス業は改善、小売業・建設業は横ばいとなっています。

3 カ月毎の比較では改善、今後 3 カ月は悪化の見込みです。



調査時期	18/9	18/12	19/3	19/6	19/9	19/12	20/3	20/6	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9
前年同期比	▲31	▲29	▲27	▲24	▲24	▲27	▲40	▲56	▲55	▲41	▲39	▲32	▲31	▲26	▲34	▲25	▲18
北海道前年同期比	▲9	▲10	▲13	▲7	▲5	▲11	▲27	▲57	▲50	▲43	▲36	▲18	▲18	▲16	▲29	▲17	▲16
直前3か月比	▲13	▲18	▲41	▲6	▲12	▲17	▲48	▲48	▲14	▲21	▲46	▲15	▲21	▲22	▲41	▲18	▲9

※前年同期比の未期見通しは調査しておりません。

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に行った全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

概況

調査先製造業全体の業況を前年同期（21年7～9月）と比較してみますと、売上で「増加」した先39%、「変わらず」の先25%、「減少」した先36%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は3となり、前回調査と同じでした。

収益は「増加」した先32%、「変わらず」の先33%、「減少」した先35%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲3となり、前回調査より13ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(22/6)	12	8	11	3
	今回(22/9)	12	8	11	3
収益	前回(22/6)	10	6	15	▲16
	今回(22/9)	10	10	11	▲3

動向

【前年同期との比較】

売上は横ばい、収益は改善しました。

内訳をみますと、木材製品の売上・収益、建設関連の売上が悪化しましたが、それ以外は全般的に改善しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上は横ばい、収益は悪化しました。

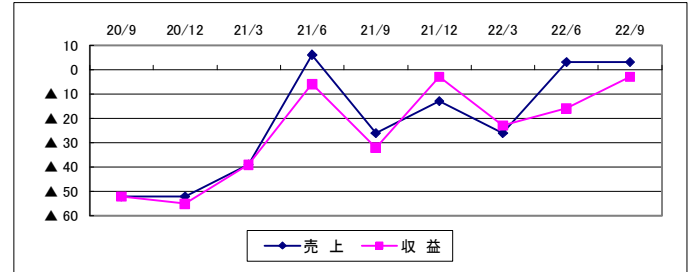
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「業況良好に推移中であり、今後設備入替を予定している」、「小麦粉、乳製品の価格高騰が著しい。販売動向も鈍い」、「コロナ禍やウッドショックの影響により、原料・資材の確保に苦慮している」といったものがありました。

前年同期比

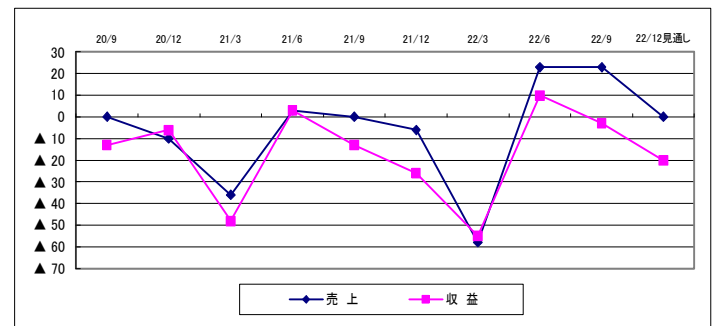
D I 値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9
売上	▲52	▲52	▲39	6	▲26	▲13	▲26	3	3
収益	▲52	▲55	▲39	▲6	▲32	▲3	▲23	▲16	▲3

直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12見通し
売上	0	▲10	▲36	3	0	▲6	▲58	23	23	0
収益	▲13	▲6	▲48	3	▲13	▲26	▲55	10	▲3	▲20

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	木材製品	建設関連	その他
売上額	4月～6月と比較	23	50	30	38	▲60
	10月～12月の見通し	0	13	▲30	50	▲40
収益	4月～6月と比較	▲3	▲13	10	13	▲40
	10月～12月の見通し	▲20	▲13	▲30	0	▲40
販売価格	4月～6月と比較	39	38	30	38	60
	10月～12月の見通し	32	50	20	13	60
原材料 価格	4月～6月と比較	87	100	60	100	100
	10月～12月の見通し	65	88	40	62	80
原材料 在庫	4月～6月と比較	▲13	▲13	▲30	▲13	20
	10月～12月の見通し	▲3	▲13	▲10	0	20
資金繰	4月～6月と比較	▲7	0	▲10	0	▲20
	10月～12月の見通し	▲13	0	▲20	0	▲40

概況

調査先卸売業全体の業況を前年同期（21年7～9月）と比較してみますと、売上で「増加」した先27%、「変わらず」の先60%、「減少」した先13%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は14となり、前回調査より28ポイント改善しました。

収益は「増加」した先18%、「変わらず」の先59%、「減少」した先23%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲5となり、前回調査より13ポイント改善しました。

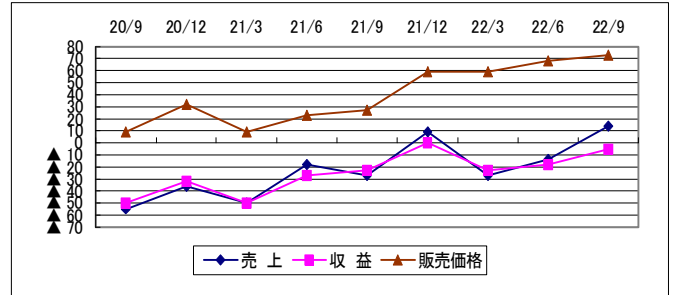
販売価格は「増加」した先77%、「変わらず」の先19%、「減少」した先4%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は73となり、前回調査より5ポイント上昇しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(22/6)	6	7	9	▲14
	今回(22/9)	6	13	3	14
収益	前回(22/6)	5	8	9	▲18
	今回(22/9)	4	13	5	▲5
販売価格	前回(22/6)	15	7	0	68
	今回(22/9)	17	4	1	73

前年同期比

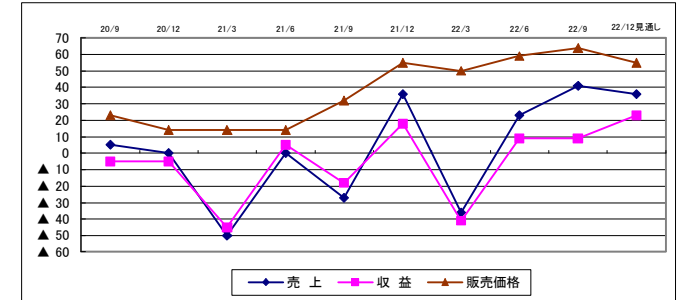
DI値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9
売上	▲55	▲36	▲50	▲18	▲27	9	▲27	▲14	14
収益	▲50	▲32	▲50	▲27	▲23	0	▲23	▲18	▲5
販売価格	9	32	9	23	27	59	59	68	73

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12見通し
売上	5	0	▲50	0	▲27	36	▲36	23	41	36
収益	▲5	▲5	▲45	5	▲18	18	▲41	9	9	23
販売価格	23	14	14	14	32	55	50	59	64	55

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに改善し、販売価格は上昇しました。

内訳をみますと、売上・収益についてはその他が悪化し、それ以外は全般的に改善しました。販売価格は食料品が下降し、それ以外は上昇しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上は改善、収益は横ばい、販売価格は上昇しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上は悪化、収益は改善し、販売価格は下降する見通しです。

調査員のコメントには、「新型コロナに対する警戒感が薄れ、売上高が増加傾向にある」、「原材料高騰分は販売価格に相応に転嫁できている」といったものがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	建設関連	その他
売上額	4月～6月と比較	41	67	67	▲14
	10月～12月の見通し	36	67	22	29
収益	4月～6月と比較	9	0	33	▲14
	10月～12月の見通し	23	50	0	29
販売価格	4月～6月と比較	64	33	78	71
	10月～12月の見通し	55	50	44	71
仕入価格	4月～6月と比較	68	33	89	71
	10月～12月の見通し	64	50	56	86
在庫	4月～6月と比較	14	17	22	0
	10月～12月の見通し	9	17	11	0
資金繰	4月～6月と比較	0	0	0	0
	10月～12月の見通し	9	0	0	29

概況

調査先小売業全体の業況を前年同期（21年7～9月）と比較してみると、売上で「増加」した先27%、「変らず」の先39%、「減少」した先34%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲7となり、前回調査より17ポイント改善しました。

収益は「増加」した先20%、「変らず」の先36%、「減少」した先44%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲24となり、前回調査と同じでした。

販売価格は「増加」した先56%、「変らず」の先39%、「減少」した先5%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は51となり、前回調査より3ポイント下降しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(22/6)	9	13	19	▲24
	今回(22/9)	11	16	14	▲7
収益	前回(22/6)	7	17	17	▲24
	今回(22/9)	8	15	18	▲24
販売価格	前回(22/6)	22	19	0	54
	今回(22/9)	23	16	2	51

動向

【前年同期との比較】

売上は改善、収益は横ばいとなり、販売価格は下降しました。内訳をみますと、食料品、その他は全般的に改善し、衣料品は全般的に悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上は横ばい、収益は改善し、販売価格は上昇しました。

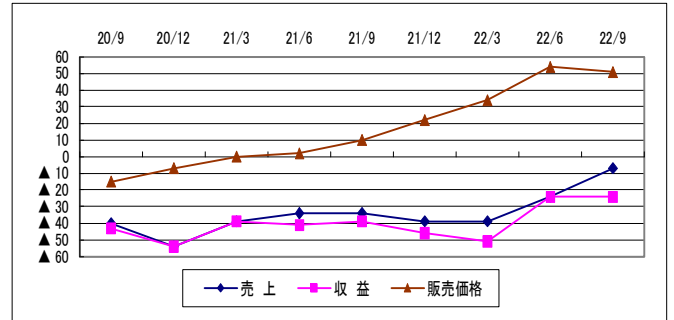
【今後3ヵ月の見通し】

売上は横ばい、収益は悪化し、販売価格は下降する見通しです。

調査員のコメントには、「新規取引先が増え、売上も増加見込み」、「コロナ禍により停止していた部門を再開するなど順調に推移」、「コロナ禍や円安の影響による仕入単価高騰・在庫不足に苦慮している」といったものがありました。

前年同期比

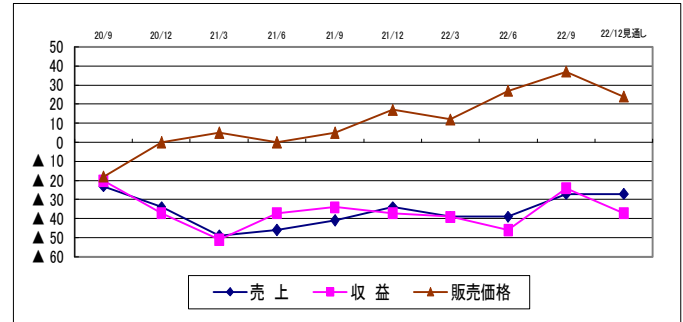
D I値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9
売上	▲40	▲54	▲39	▲34	▲34	▲39	▲39	▲24	▲7
収益	▲43	▲54	▲39	▲41	▲39	▲46	▲51	▲24	▲24
販売価格	▲15	▲7	0	2	10	22	34	54	51

直前3ヵ月比

D I値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12見通し
売上	▲23	▲34	▲49	▲46	▲41	▲34	▲39	▲39	▲27	▲27
収益	▲20	▲37	▲51	▲37	▲34	▲37	▲39	▲46	▲24	▲37
販売価格	▲18	0	5	0	5	17	12	27	37	24

直前3ヵ月比調査の業種別状況(D I値による) (%)

項目		全体	衣料品	食料品	その他
売上額	4月～6月と比較	▲27	▲50	▲20	▲25
	10月～12月の見通し	▲27	▲33	▲20	▲30
収益	4月～6月と比較	▲24	▲50	▲20	▲20
	10月～12月の見通し	▲37	▲33	▲47	▲30
販売価格	4月～6月と比較	37	17	67	20
	10月～12月の見通し	24	33	47	5
仕入価格	4月～6月と比較	54	17	80	45
	10月～12月の見通し	41	17	67	30
在庫	4月～6月と比較	▲5	0	20	▲25
	10月～12月の見通し	▲15	▲33	7	▲25
資金繰	4月～6月と比較	▲17	▲33	▲20	▲10
	10月～12月の見通し	▲24	▲50	▲27	▲15

概況

調査先建設業全体の業況を前年同期（21年7～9月）と比較してみると、売上で「増加」した先20%、「変わらず」の先51%、「減少」した先29%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲9となり、前回調査より11ポイント改善しました。

収益は「増加」した先11%、「変わらず」の先41%、「減少」した先48%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲37となり、前回調査と同じでした。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(22/6)	5	18	12	▲20
	今回(22/9)	7	18	10	▲9
収益	前回(22/6)	3	16	16	▲37
	今回(22/9)	4	14	17	▲37

動向

【前年同期との比較】

売上は改善し、収益は横ばいでした。

内訳のD I 値の推移は以下のようになっています。

- ・ 土木売上：前回▲17→今回▲25
- ・ 同 収益：前回▲32→今回▲50
- ・ 建築売上：前回▲24→今回▲12
- ・ 同 収益：前回▲47→今回▲41

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに改善しました。

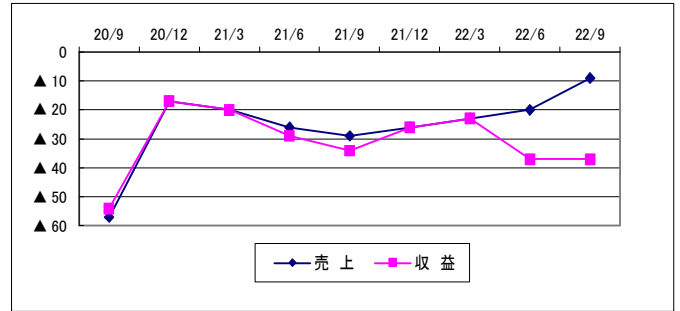
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「需要は旺盛であり、道内各地で施工中」など受注が堅調といったものが複数見られた一方で、資材不足や仕入価格高騰に苦慮しているといった内容のコメントも多数報告されています。

前年同期比

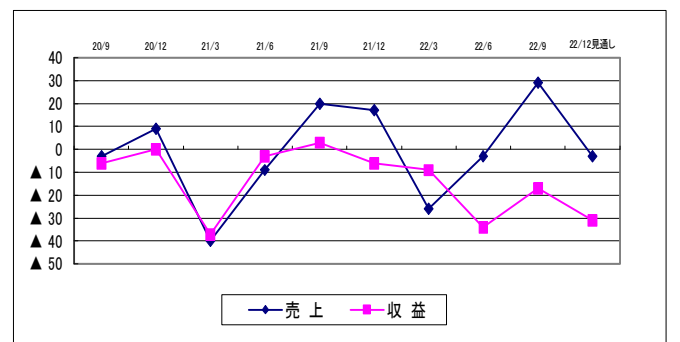
D I 値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9
売上	▲57	▲17	▲20	▲26	▲29	▲26	▲23	▲20	▲9
収益	▲54	▲17	▲20	▲29	▲34	▲26	▲23	▲37	▲37

直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12見通し
売上	▲3	9	▲40	▲9	20	17	▲26	▲3	29	▲3
収益	▲6	0	▲37	▲3	3	▲6	▲9	▲34	▲17	▲31

直前3ヵ月比調査の業種別状況(D I 値による) (%)

項目		全体	土木	建築	その他
売上額	4月～6月と比較	29	25	12	83
	10月～12月の見通し	▲3	▲8	▲6	17
施工高	4月～6月と比較	20	33	▲6	67
	10月～12月の見通し	0	0	▲12	33
収益	4月～6月と比較	▲17	▲42	▲29	67
	10月～12月の見通し	▲31	▲25	▲59	33
請負価格	4月～6月と比較	34	8	47	50
	10月～12月の見通し	23	▲8	41	33
材料価格	4月～6月と比較	86	75	88	100
	10月～12月の見通し	83	75	88	83
在庫	4月～6月と比較	0	▲8	6	0
	10月～12月の見通し	0	▲8	6	0
資金繰	4月～6月と比較	0	0	▲6	17
	10月～12月の見通し	▲3	0	▲6	0

概況

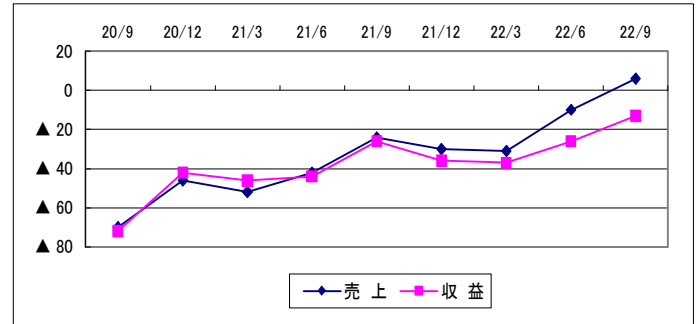
調査先サービス業全体の業況を前年同期(21年7~9月)と比較してみますと、売上で「増加」した先35%、「変わらず」の先36%、「減少」した先29%で、そのD I値(増加割合-減少割合)は6となり、前回調査より16ポイント改善しました。

収益は「増加」した先23%、「変わらず」の先41%、「減少」した先36%で、そのD I値(増加割合-減少割合)は▲13となり、前回調査より13ポイント改善しました。

調査回答数(前年同期比)

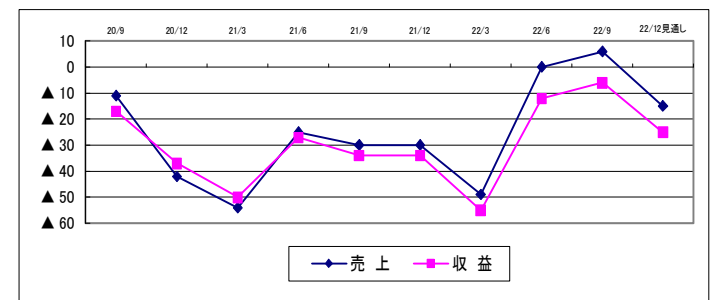
		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(22/6)	13	20	18	▲10
	今回(22/9)	18	19	15	6
収益	前回(22/6)	8	22	21	▲26
	今回(22/9)	12	21	19	▲13

前年同期比 DI値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9
売上	▲70	▲46	▲52	▲42	▲24	▲30	▲31	▲10	6
収益	▲72	▲42	▲46	▲44	▲26	▲36	▲37	▲26	▲13

直前3ヵ月比 DI値図表



調査時期	20/9	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12見通し
売上	▲11	▲42	▲54	▲25	▲30	▲30	▲49	0	6	▲15
収益	▲17	▲37	▲50	▲27	▲34	▲34	▲55	▲12	▲6	▲25

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに改善しました。

内訳をみますと、理容美容が大きく改善しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに改善しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに悪化する見通しです。

調査員のコメントには、「需要旺盛なため人員不足であり、常に募集をしている」、「コロナ禍においても客足・売上に変化はない」、「人流の回復に伴い、徐々に客足が戻りつつある」、「コロナ禍により高齢の顧客層の来店が減少しており、現在も回復していない」、「資材価格の高騰により業況は厳しい」といったものがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	理容美容	車両関係	その他
売上額	4月~6月と比較	6	▲22	▲20	29
	10月~12月の見通し	▲15	▲33	▲40	4
収益	4月~6月と比較	▲6	▲22	▲20	7
	10月~12月の見通し	▲25	▲33	▲33	▲18
料金価格	4月~6月と比較	17	▲11	7	32
	10月~12月の見通し	10	▲11	20	11
材料価格	4月~6月と比較	71	33	87	75
	10月~12月の見通し	64	33	73	68
資金繰	4月~6月と比較	▲10	▲22	▲20	0
	10月~12月の見通し	▲15	▲22	▲27	▲7

経営上の問題点 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	原材料高 93.5%	売上の停滞・減少 41.9%	人手不足 29.0%
卸売業	売上の停滞・減少 36.4%	利幅の縮小 36.4%	仕入先からの値上げ要請 36.4%
小売業	売上の停滞・減少 46.3%	仕入先からの値上げ要請 39.0%	商圏人口の減少 31.7%
建設業	材料価格の上昇 80.0%	人手不足 57.1%	売上の停滞・減少 37.1%
サービス業	材料価格の上昇 42.3%	売上の停滞・減少 40.4%	人手不足 26.9%

経営施策 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	経費を節減する 58.1%	販路を広げる 45.2%	人材を確保する 41.9%
卸売業	経費を節減する 63.6%	販路を広げる 50.0%	情報力を強化する 45.5%
小売業	経費を節減する 58.5%	売れ筋商品を取扱う 34.1%	品揃えを改善する 24.4%
建設業	人材を確保する 60.0%	経費を節減する 54.3%	販路を広げる 34.3%
サービス業	経費を節減する 48.1%	人材を確保する 28.8%	販路を広げる 26.9%

【調査要領】

1. 調査地域 北見地方1市4町（北見市、置戸町、訓子府町、美幌町、津別町）
2. 調査時点 2022年9月
2022年7月～9月期の実績および見込み
2022年10月～12月期の見通し
3. 調査対象企業 当金庫お取引先181社（任意抽出）
回答企業数 181社
回答率 100%
4. 調査方法 調査表による訪問聞き取り調査
調査表は信金中央金庫が実施する「全国中小企業景気動向調査」と同一のものを使用
5. 業種別回答企業数

製造業	卸売業	小売業	建設業	サービス業	合計
31	22	41	35	52	181

6. 分析方法 各質問項目を100分比に換算し、パーセント（%）数値による分析を行いました。また、好転か悪化の傾向をみる方法として、「増加割合－減少割合＝判断指数（DI値）」で分析を行いました。

企業の経理事務を便利にサポート
インターネットバンキング
WEB-FB

■総合振込 ■給与・賞与振込 ■都度振込 ■口座振替 ■入出金明細照会 ■残高照会

低コスト！

インターネットが使える環境さえあれば、すぐにご利用が可能です。
 専用ソフト、専用端末などに余計な経費をかけません。

効率的！

総合振込、給与・賞与振込、都度振込、口座振替業務がインターネット経由でスピーディにご利用いただけます。
 振込や振替のデータは外部ファイルから取り込むこともできます。







便利！

登録先の口座以外でも当日振込が可能です。急な振込がオフィスのパソコンから随時できるので便利。
 また、振込完了や為替エラーなど、重要な連絡を電子メールでタイムリーにお知らせします。

安心！

一般者用ID、承認者用ID、管理者用IDの3つのIDで権限設定が可能です。
 登録したデータの承認を貴社の管理者がダイレクトにできるため、厳密なチェックが可能です。
 電子証明書とワンタイムパスワードにより、安全にご利用いただけます。

オホーツク圏経済情勢報告（令和4年7月判断）概況

	前回(4年4月判断)	今回(4年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	新型コロナウイルス感染症や原材料価格上昇の影響がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	原材料価格上昇等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある 【判断の上方修正は、令和4年2月判断以来、2期ぶり】		個人消費は、原材料価格上昇等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。 観光は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。 また、雇用は、緩やかに持ち直しの動きがみられる。
	前回(4年4月判断)	今回(4年7月判断)	前回比較	
個人消費	感染症等の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	原材料価格上昇等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある		
観光	一部に持ち直しの動きがみられるものの、感染症等の影響により、弱い動きとなっている	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある		
雇用	緩やかに持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直しの動きがみられる		
公共事業	前年を上回る	前年を下回る		
住宅着工	前年を下回る	前年を下回る		
先行き	先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、感染症の影響や原材料価格の上昇、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。			